

# 魅力発信！えひめ農業NOW

令和2年2月

## 【お知らせ】

魅力発信！えひめ農業NOWは、県ホームページ(※1)で、県下全地区の内容について、閲覧できます。

※1 掲載場所：ホーム＞仕事・産業・観光＞農業＞農業振興＞愛媛県農業技術情報サービス  
※2 この動向は、2月中に各普及地区から報告のあったものを取りまとめたものです。

～愛媛県農林水産部農業振興局農産園芸課～

〒790-8570

愛媛県松山市一番町4丁目4-2

(TEL) 089-912-2558

(FAX) 089-912-2564

<http://www.pref.ehime.jp/noukei/>

# 「魅力発信！えひめ農業NOW」（2月分）

## 東予地方局地域農業育成室

### ■夏秋きゅうり猛暑はチャンス、高収益を実証

- 近年、夏秋きゅうりは、梅雨明け後の高温による株疲れ等が原因で、収量が激減している。
- そこで、地域農業育成室は実証圃（2.5a）を設置し、耐病性品種の導入、積極的な摘葉、高温に対応した灌水量及び黄化えそ病の発病状態に合わせた追肥（追肥タイミングの見える化）を実施したところ、8月2日～11月2日までの長期獲りを行うことができた。
- これにより、収量が13,338 kg/10a（JA周桑平均収量7,800 kg/10a）と大幅に増加し、販売金額も2,885千円/10a（JA周桑平均販売額1,665千円/10a）を達成できた。
- この結果をふまえ、次年度作より「猛暑はチャンス 黄化えそ病を乗り越える」をコンセプトに、管内の夏秋きゅうりの高収量・高収益を目指していく。



夏秋きゅうり実証状況（9月15日撮影）

## 四国中央農業指導班

### ■えひめ農商工連携ファンド事業による新商品PRの支援

- 地域農業育成室は2月12～14日、千葉県幕張メッセで開催されたスーパーマーケットトレードショーにおいて、(有)脇製茶場と霧の森を運営する(株)やまびこが、えひめ農商工連携ファンド事業を活用して開発した新商品のPRを支援した。
- 脇製茶場は、緑茶の消費減少に対し、紅茶や烏龍茶などの発酵茶に地元産の食材を入れたフレーバーティを、やまびこは、その商品を使ったスイーツの新商品開発に取り組んでいる。
- 初めての大型商談会出展のため、商品展示方法や試飲・試食の注意点などアドバイスを行い、3日間のトレードショーを終えることができた。
- 今後、パウンドケーキやフロランタンなどの商品のブラッシュアップを行い、霧の森大福の後継商品につながるよう支援していく予定である。



来客者への対応状況

### ■認定農業者協議会が「倉敷青果荷受組合」を視察

- 四国中央農業指導班は2月20日、四国中央認定農業者等連絡協議会（土居支部）と連携し、倉敷市にある「倉敷青果荷受組合」の視察を実施した。
- これは、今後の業務用野菜の市場拡大に合わせ、加工業者との連携を推進するために実施したもの。
- 当組合は、青果物の卸売業務を主力としていたが、1998年からカット野菜部門を立ち上げ、加工・業務用野菜生産のビジネスに参入し、全国240社6,000店のスーパー、コンビニに直販をしている。
- 当日は、業務用野菜の仕入れ先、契約産地との現状や課題、販路開拓などについての意見交換を行い、工場内の施設整備や作業工程の管理、衛生管理や雇用状況について説明を受けることにより、参加者の意欲向上を図ることができた。



施設見学

## 今治支局地域農業育成室

### ■今治地区稲麦作研究連絡協議会で食味試験を実施

- 地域農業育成室は2月21日、今治地区稲麦作研究連絡協議会を開催し、会員等20人が参加。
- 同室から、昨年産の水稻と麦および今年産の麦の生育概況、病虫害防除所から昨年産水稻の病虫害の発生動向について説明した。
- また、「ヒノヒカリ」を基準米とした食味試験では、「ひめの凜」の評価が高い結果を確認できた。
- 今後は、品種の特性を生産者に浸透させ、高品質生産に向けた栽培管理の徹底を図る。



食味試験を実施

### ■今治南高校で就農啓発講座を開催

- 地域農業育成室は2月10日、令和元年度就農啓発講座を今治南高校日高農場で開催し、同校園芸クリエイト科の生徒66名が参加した。
- 当室の職員が、就農に至るまでの支援内容や心構え等を説明し、就農に必要な農地や施設・機械装備等を示した。
- また、地域の担い手として活躍している若手農業者を講師として招き、高校生が就農後をイメージできる営農事例を紹介してもらい、農業大学校職員から同校のカリキュラムを説明した。
- 生徒からは、「何歳になっても農業ができると思った」「就農に興味を湧いた」などの意見が挙がり、就農の関心を高めることができた。



就農支援制度を説明する普及員

## 今治支局産地戦略推進室

### ■東京で今治産花木の販売促進活動を行う

- 産地戦略推進室は2月25～26日、東京の大田市場と(株)日比谷花壇において今治産花卉花木の販売促進活動を行った。
- 当室の職員より、今治産花木は鮮度保持剤を吸わせた後に切り口に湿らせた綿をつける出荷を行っており、日持ちに優位性があることを改めてPRした。
- 今年より新規に出荷したオリーブ切り枝については、他産地よりも品質は良好であるとの評価を得た。
- また、幸せを運ぶイメージを定着させてブライダルシーズンである10～12月を中心に出荷を行うと良いとのアドバイスもあり、次年度はブライダルシーズンの出荷を目指す。



(株)日比谷花壇の仕入れ担当者にPRする普及員(左)

### ■東京・大阪でしまなみ産6次産業化商品の販売促進活動を実施

- 産地戦略推進室は2月5日～7日及び13日～14日に、東京と大阪にある「えひめ食の大使館」等飲食店11店舗を訪問し、「大島産オリーブオイル」と「大三島産ワイン」の販売促進活動を行った。
- 当室職員がオリーブや醸造用ぶどうの栽培取組と商品の特徴について説明。
- また、店舗での試飲では、「オリーブオイルは辛みがなくて、やさしい味がする。香りも良い」

「ワインは軽やかな味わいで若者向き。もっと複雑味が出てくるといい」等、様々な評価や意見を得られた。

- 今後イベント等による紹介を検討したい店舗もあり、当室では、引き続き関係機関と連携して、認知度の向上に取り組んでいく。



えひめ食の大使館で商品説明する普及員（右手前）

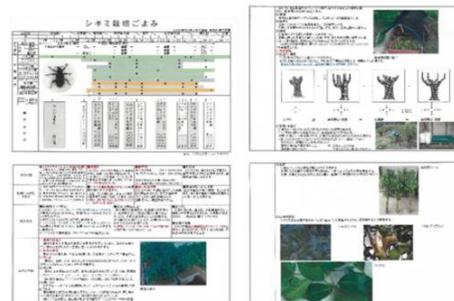


オリーブオイルの試飲

### 中予地方局地域農業育成室

#### ■「売れるシキミづくり」を目指して、高品質生産マニュアルを作成・配布

- 地域農業育成室は2月4日、JAえひめ中央三内支所で、シキミ部会員12名が出席して開催された栽培反省会において、今年度作成したシキミ高品質生産マニュアルを配布し、シキミづくりのポイントを指導した。
- 本生産マニュアルは、当室がこれまで実施してきた管内優良生産農家の栽培・経営実態調査や、各種技術実証成果を踏まえて作成したもの。
- また、反省会では、省力化を促すため、防除面では従来からの水和剤から粒剤利用や、施肥管理では、緩効性肥料の利用等も提案した。
- 今後は管内生産者に対し、マニュアルに沿った指導を行い、生産技術の底上げとともに、「できたものを売る」から「売れるものをつくる」への意識を高め、産地の維持を図る。



シキミ高品質生産マニュアル

#### ■「GAPをする」でGAPを身近に！

- 地域農業育成室は2月25日、北条地区の青年農業者5名を対象にGAP見回り会を開催。GLOBAL G.A.P.を取得した会員の倉庫及び圃場を参考に、取得していない会員の倉庫や圃場を巡回指導した。
- 当日は参加者同士で、取り組んでいる点や改善点について意見交換を行い、今年度、実施してきた4回のGAP研修会の集大成として、「GAPをする」について理解を深めた。
- 当室は、東京オリンピック・パラリンピック大会等で注目されているGAPへの取り組み及び認証取得を推進しており、今後も担い手にGAPの考え方を周知し、「より良い農業」の実現を目指す。



危険個所の改善策を指導する普及員

#### ■炭酸ガス施用の適正管理でイチゴ生育良好

- 地域農業育成室は12月から、イチゴの生育促進を図るため、管内の炭酸ガス発生機を導入している農家10戸を対象に、日中の炭酸ガス施用の適正管理を呼び掛けており、合わせてハウ

ス内の炭酸ガス濃度の測定を行っている。

- 厳寒期のハウス内日中炭酸ガス濃度は、外気よりも低く光合成量が低下するため、イチゴの生育を安定・促進させるためには、ハウス内を外気と同等の炭酸ガス濃度に維持することが理想である。
- そこで、当室では農家がある場で炭酸ガス濃度を確認できるよう、簡易な炭酸ガス測定器を設置し、炭酸ガス施用時間等の指導を行っている。
- 生産者からは、目に見えない炭酸ガス濃度が数値で把握でき、さらに、生育・果実肥大も促進されると好評である。



炭酸ガス濃度を確認する普及員

## 伊予農業指導班室

### ■中山栗をイノシシから守れ！ 鳥獣管理専門員と連携しワイヤーメッシュの設置指導

- 伊予農業指導班は2月4日、鳥獣管理専門員（JA えひめ中央営農指導員）と連携し、局予算で設置した「新植・早期成園モデル園」で、新規就農者及び中山町農業者会議会員に対し、ワイヤーメッシュの設置講習会を開催。
- イノシシの生態や行動習性、ワイヤーメッシュ設置方法及び設置後のメンテナンス等について説明した後、実際にワイヤーメッシュの設置実習を行った。
- 参加者からは、「ハッカー（ワイヤーメッシュと鉄筋を針金で結束するための道具）の使い方に戸惑ったが、すぐに慣れてスムーズに設置できた」「傾斜地の設置は柵の下や柵と柵の間に隙間ができるので難しい」などの感想が聞かれた。
- 同班は、今後も鳥獣管理専門員と連携し、中山栗をイノシシから守るための支援を行う。



設置のポイントを説明する  
鳥獣管理専門員

## 久万高原農業指導班

### ■新規就農者を含む青年農業者の経営改善を重点指導

- 久万高原農業指導班は、決算期に合わせて新規就農者を含む青年農業者5名に対し、経営改善の重点指導を実施。
- これは、農業経験が未熟な青年農業者を対象に、次年度以降の経営改善につなげるため実施したもの。
- 普及指導員より、パソコンによる帳簿等から経営上の問題点（単収の低さや労力配分の偏り）、経費節減などを指摘。
- 改善方策として、雇用労働を活用したピーマン栽培の規模拡大や、労働力分散と所得向上を図るため、水田への高収益野菜の作付けを提案するなど、個々の経営に応じた改善指導を実施している。



個々の経営に応じた  
改善指導を行う普及員（左）

## 中予地方局産地戦略推進室

### ■東温パクチーの産地内リレー出荷による周年出荷体制を協議

- 産地戦略推進室及び地域農業育成室は2月17日、「東温パクチー産地づくり事業」に係る第2回戦略会議を東温市内で開催し、生産者やJA、市など関係者12名が出席。
- 今年度は、①平坦部では栽培が難しい夏季に、標高500mの高地で高品質生産が実証できたこと、②イベントやPR活動・メディアでの情報発信等により「東温パクチー」の知名度が高まったこと、③大消費地における市場調査の結果、東温パクチーの評価は高く、周年出荷の要望があったこと等を報告、出席者からは安定生産のポイント等について質問があった。
- 次年度は、東温市内の標高差を活用した「産地内リレー出荷」による周年供給体系を目指すこととし、新規栽培者の掘り起こしや高品質生産、夏場の鮮度保持対策等に関係者が協力して取り組むこととなった。



パクチーの周年生産に向けた協議

### ■「さくらひめ」の無加温簡易雨よけ栽培を松山市農業指導センターで実証

- 産地戦略推進室及び地域農業育成室は2月10日、松山市農業指導センター内に、「さくらひめ」の無加温簡易雨よけ栽培の実証圃を設置した。
- 来場者に広くさくらひめ栽培を周知し、栽培希望者を募るために、同センターに協力を要請し実現したもの。
- 実証圃の栽培方法は、農林水産研究所花き研究指導室が開発したもので、暖房機、電照等の設備が不要で初期投資が大きく軽減できるのが特徴。
- 県内における本技術の栽培実証は今回が初めてで、6月の採花を目指しており、両室では今回の実証を通じ、管内の花き生産者への「さくらひめ」の認知度向上と生産拡大に繋げることとしている。



無加温簡易雨よけ栽培

## 南予地方局地域農業育成室

### ■次年度の加工用くだもの生産計画等について情報共有

- 地域農業育成室は2月27日、南予地方局において、管内関係市町・JA えひめ南、(株)源吉兆庵関係者で構成する第4回源吉兆庵ファクトリーブランド促進協議会を開催。
- 会議では、令和元年度（平成31年産）の販売実績と令和2年度への生産状況と予想出荷量、源吉兆庵宇和島工場に供給する品目の振興状況に関する生産現場での問題点、改善策を中心に情報交換を実施。
- (株)源吉兆庵に出荷する主要4品目（くり・もも・びわ・かき）について、くりでは、収穫から出荷までに要する日数、ももでは、品種構成の是正などが示され、対策案を協議した。
- また、2～3年後を念頭に取組む活動（くりの栽培園地の造成、かきの追熟処理など）を紹介した。
- 同室では、引き続き、地方局予算「高級菓子用くだもの育成・ブランド開発事業」を活用し、



真剣に意見を交換する参加者

常に関係機関との情報交換を行いながら、原料となる果物の安定供給に取り組む。

### ■丹原高等学校で南予農業の魅力を発信

- 地域農業育成室は2月12日、東・中予の高校生に南予地域の基幹産業である農業の魅力を発信するため、局予算「南予農業魅力発信支援事業」による第2回南予農業魅力発信セミナーを丹原高等学校で開催し、生徒70人が参加した。
- セミナーでは、「えひめ愛顔の農林水産人」の中野 聡氏（西予市：田力本願株代表取締役）と宮本泰邦氏（八幡浜市：ミヤモトオレンジガーデン代表取締役）は、他産業に就職してから就農し会社を設立したいきさつや農業のやりがい、グローバルGAP等について話題提供した。
- 生徒からは、「仲間と会社を設立した素晴らしさ、消費者にPRする大切さを知った」「GAPに取り組む大変さや有効性について知ることが出来た」等の意見があり、南予の農業に関心を示していた。



講師による質疑応答

## 鬼北農業指導班

### ■キウイフルーツ花粉ビジネスが始動

- 鬼北農業指導班は2月10日と13日、松野町、果樹研究センターと連携して「キウイフルーツ花粉ビジネス」に取り組んでいる松野町の農家3戸に、花粉用品種（チーフタン）の植栽指導を実施した。
- 1月末に完成した雨よけ施設6棟（18.5a）は暗渠排水を講じており、さらに湿害対策として不織布によるポット栽培を導入する。
- 令和4年には花粉の初収穫が見込まれており、同班は、全国初のキウイ花粉の産地づくりに向けて、引き続き栽培指導を徹底する。



完成した雨よけ施設



果樹研究センターによる植栽指導



ルートラップによるポット栽培

### ■くりの剪定作業受託で安定生産（源吉兆庵への安定供給）・産地維持を図る

- 鬼北農業指導班は1月29日～2月5日、高齢化で産地の維持が困難となっている、くりの剪定作業を支援するため、「くり請負剪定班」を編成し剪定技術のサポートを実施した。
- 請負剪定班は、鬼北地域の農業者約10名で構成されており、活動5年目となる今年は、約3haを請け負った。
- 今後は、低樹高化栽培を推進し、高齢化が深刻になったくり産地の維持および（株）源吉兆庵への安定供給を目指す。



高枝チェーンソによるせん定（左）  
カットバック選定による低樹高化（右）

## 愛南農業指導班室

### ■規模拡大生産者を対象に「根こぶ病」総合対策特別講習会を開催

- 愛南農業指導班は2月25日、ブロッコリーの難防除病害である「根こぶ病」対策の特別講習会を、規模拡大農家5名を対象に実施した。
- 根こぶ病は減収リスクの高い土壌伝染性の病害で、トラクターなどで未発生圃場への伝染拡大も懸念されるため、産地を支える大規模農家には早期の対策が必要となっている。
- 講習会では、本病害の特徴や既に拡大しつつある状況を報告し、対策方法等について説明を行った。
- 当班では、研究の動向や新しい対策技術の収集を行うとともに、引き続きコストに配慮した発病リスク別の対策手法について指導を行う。



根こぶ病対策について指導する普及指導員

## 南予地方局産地戦略推進室

### ■魅力ある河内晩柑産地を目指して

- 産地戦略推進室は2月27日、道の駅津島やすらぎの里において、局予算「河内晩柑魅力発信事業」の一環として、生産者32人を対象に河内晩柑栽培技術セミナーを開催。
- セミナーでは、果樹研究センター長によるカンキツ黒点病防除技術についての講演のほか、愛南農業指導班から自然落果の軽減技術の実証試験結果、当室から河内晩柑魅力発信事業の2か年の取組みや河内晩柑魅力発信協議会で決定したキャッチコピーの活用等について説明。
- 参加者からは、古く大きい樹の防除方法や落果防止剤の散布時期、果皮の苦みが受け入れられるかななどの質問があり、議論が深まった。
- 当室では、販売イベント等において、キャッチコピー「ほとばしる果汁！みなぎるオーラ！」を活用しながら、生産者や直売所、加工業者等と連携を深め、魅力ある産地を目指す。



カンキツ黒点病に関する講演

## 八幡浜支局地域農業育成室

### ■アシストスーツによる労働力軽減へ

- 地域農業育成室は2月16日、柑橘労働環境の改善として農作業アシストスーツの効果実証及び普及に向けた取り組みとして、「八幡浜みなっと」で開催したオレンジフェスタで軽労働化に向けた農業講座を開催し、アシストスーツの特徴や期待される効果説明と着用体験コーナーでの軽労働化確認を行った。
- 講座参加者は、タイプの違うスーツを着用し、みかんコンテナの持ち上げ効果を確認し、自分に合ったスーツを探す利用者が多くいた。
- 現在、管内の農業者を対象にアシストスーツの利用実証を行っているが、希望者が多く、農業者の関心の高さがうかがえた。



アシストスーツ着用体験

## 西予農業指導班

### ■三瓶4Hクラブが耕作放棄地の伐採を行う

- 西予農業指導班は、三瓶4Hクラブの耕作放棄園地伐採作業の活動を支援した。
- 西予市が耕作放棄地を再整備し、担い手に農地を集めるために実施したもので、4Hクラブの20名を動員して、三瓶町蔵貫地区の清見、ニューサマーオレンジの廃園4か所30aの伐採、伐採した木の焼却準備を行った。
- 再整備された土地は、2名の担い手に渡され、柑橘を定植する予定。
- 同班は、耕作放棄地の解消と担い手への農地集積に向け、同市と地域農業者を連携して、伐採改植の取組みを支援する。



耕作放棄地園の伐採

### ■農福連携によるいちご出荷箱折りのマッチング成立

- 西予農業指導班は2月12日、農福連携推進モデル事業を活用し、農福連携マッチングに向けたジョブコーチの育成を行った。
- 今回は、JAひがしうわ農業センターのいちご栽培担当職員が、市内障がい者就労施設のジョブコーチへいちご出荷箱の折り方手順とポイント説明し、ジョブコーチと一緒に実演。
- ジョブコーチは、折り方のコツやポイントを押さえ、この作業なら問題なく就労者にできると判断し、マッチングに向けた協議を進めた結果、3月から作業委託契約を結び、農福連携作業を開始することとなった。
- いちご生産者は、出荷箱組み立て作業を委託できることで他の作業へ時間を費やすことができ、効率化につながると期待を寄せている。
- このマッチングはJAひがしうわと連携して推進した事例であり、今後いちご部会員への波及も検討していく。



箱折の手順等をジョブコーチへ説明

■■■ 情報の問合せ先一覧表 ■■■

文中略称	正式機関名	所在地および連絡先
東予	東予地方局産業経済部 産業振興課	西条市丹原町池田 1611 TEL:0898-68-7322 FAX:0898-68-3056
四国中央	東予地方局産業経済部 産業振興課地域農業育成室 四国中央農業指導班	四国中央市中之庄町 1684-4 TEL:0896-23-2394 FAX:0896-24-3697
今治	東予地方局産業経済部 今治支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	今治市旭町 1-4-9 TEL:0898-23-2570 FAX:0898-22-9724
しまなみ	東予地方局産業経済部 今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班	今治市伯方町木浦甲 4637-3 TEL:0897-72-2325 FAX:0897-72-1912
中予	中予地方局産業経済部 産業振興課	松山市北持田町 132 TEL:089-909-8762 FAX:089-909-8395
久万高原	中予地方局産業経済部 産業振興課地域農業育成室 久万高原農業指導班	上浮穴郡久万高原町入野 263 TEL:0892-21-0314 FAX:0892-21-2592
伊予	中予地方局産業経済部 産業振興課地域農業育成室 伊予農業指導班	伊予市市場 127-1 TEL:089-982-0477 FAX:089-983-2313
南予	南予地方局産業経済部 産業振興課	宇和島市天神町 7-1 TEL:0895-22-5211 FAX:0895-22-1881
鬼北	南予地方局産業経済部 産業振興課地域農業育成室 鬼北農業指導班	北宇和郡鬼北町興野々1880 TEL:0895-45-0037 FAX:0895-45-3152
愛南	南予地方局産業経済部 産業振興課地域農業育成室 愛南農業指導班	南宇和郡愛南町城辺甲 2420 TEL:0895-72-0149 FAX:0895-73-0319
八幡浜	南予地方局産業経済部 八幡浜支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	八幡浜市北浜 1-3-37 TEL:0894-23-0163 FAX:0894-23-1853
大洲	南予地方局産業経済部 八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班	大洲市田口甲 425-1 TEL:0893-24-4125 FAX:0893-24-5284
西予	南予地方局産業経済部 八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班	西予市宇和町卯之町 3-434 TEL:0894-62-0407 FAX:0894-62-5543